

●特集・減圧症再圧治療の実際と治療法の検討

減圧症再圧治療の史的展望

大岩 弘典*

減圧症及び空気塞栓に対する再圧治療のうち、最適な圧・時間あるいは酸素呼吸法について、いまだ明確な結論を得るに至っていない。その要因は再圧治療の方法論について正確な評価を得る報告が少ないことに起因している。この点減圧症治療例の多い我国の報告は有益と考えている。

減圧症及び空気塞栓に対する再圧治療は古く(1854, Pal, Watelle)からおこなわれ、現在のよる治療の標準化が初めておこなわれ(1924, U.S. N. Diving Manual)てからすでに55年を経過した。その間1945年に米海軍から公表された標準再圧治療表は、その後20年間、減圧症及び空気塞栓に対する治療の金科玉条として、各国海軍、民間海運界、更に医学界でも使用されて来た。

1965年 Rivera の報告により、標準再圧治療成績が、とくに重症例において低く、50%に満たないこと。又重症例に対するいわゆる酸素治療表(oxygen table)が効果があると云う報告(1965, Warkman, Goodman)から改めて、減圧症及び空気塞栓に対する治療法の問題点が討議され始めた。この酸素治療表についてはいまだ最終的な評価を得るに至っていない。

以来20年間、再圧治療は以下の結果を生むに至っている。

1. 再圧により速やかに、完全に、再発なく症状の消退する例。
2. 標準再圧治療表による治療時期中に、緩やかに、恒久的に症状が消退される例。
3. 初期再圧により殆んど改善は認められないが、治療期間中に徐々に改善、完治に至るもの。

4. 治療により1時的に改善・消退・再燃を繰り返す例。一般的には治療中の減圧段階に認められるが、加圧中でも、あるいは治療終了後に症状の再燃する例。

5. 治療により改善がみられるも後遺症が残った例。

6. 重篤なショック状態を呈する例で、再圧によっても反応しない。治療期間中に不可逆的な重篤状態に陥る例で、再圧治療が結果として改善を予測できぬ例。

上記の1～3例は bends I型に属する減圧症に対して確立された治療表のうち適切な表の適応で得られる結果と考えられている。6例は治療態勢が確立されていない場合にみられる症例が多く、別の問題が含まれていると考えられる。

更に再圧治療の方法論を考える場合、当然減圧症及び空気塞栓の病因及び病態生理におよぶ解析と、発症後の症状増悪に対する予防処置を考慮した配慮が望ましく、その面でも最近2年間の日本高気圧環境医学会総会においておこなわれたシンポジウムの討議は貴重であろう。

〔参考文献〕

1. C. J. Lambertsen: Proceedings of the Symposium on decompression sickness and its therapy (New Orleans, La. Feb. 1978), Organized by the Association of Diving Controllers and the Institute of Environmental Medicine, University of Pennsylvania. Air Products and Chemicals, Inc, Allentown, Penn., 1979

*海上自衛隊江田島地区病院

2. J. C. Davis: Treatment of serious decompression sickness and arterial gas embolism, (Duke university, Jan. 1979)., The 20th Under-

sea Medical Society Workshop, Undersea Medical Society, Inc., 9650 Rockville Pike, Bethesda, Ma 20014, 1979

日本薬局方

抗ヘパリン剤

硫酸プロタミン注射液「シミズ」

10ml (100mg) 1瓶

日本薬局方

血液凝固阻止剤

ヘパリンナトリウム注射液「シミズ」

5ml×10A・10ml×10V・50ml×10V・100ml×10V (1ml=1,000u)

- 健保適用
- 効能・効果・用法・用量，使用上の注意は添付文書をご覧ください。

製造



清水製薬株式会社
静岡県清水市宮加三235番地

販売



武田薬品工業株式会社
大阪市東区道修町2丁目27番地